

# ふみびと

## 当たり前の日常

第265号  
発行所  
文通村事務局  
編集 広報部  
千葉県成田市

# 希望ある 新しい年へ

早いもので今年ももう最後のふみびと。この一年は例年にはないほど、ずっと同じ話題に終始した年となりました。

「コロナ」という言葉を聞かない日はなく、今年の今頃は想像もできないような不安な一年を過ごしたような気がします。「新しい日常」という言葉も生まれるほど劇的に変わってしまった毎日、それでも誰もが適応しようとしてきたことを我慢してきた日々だったので

ないでしょうか。

毎日出社して顔を合わせて仕事をしたり、いつもと同じように登校して友達としゃべり合う学校生活。そんな「当たり前」が当たり前ではなくなっ

てしまったニュースに心を痛めている毎日でした。それでも今まではとも考えられなかったテレワークやオンライン授業など、多くの人の知恵や努力によって、不可能だと思われてきた日常を可能にしてきた一年でもあ

るように思います。



医療従事者の方々や、観光業、飲食業の方々など、明日の見えない苦しい毎日を送られている皆さまの苦勞を思うと、私の我慢など些細なことかもしれませんが、自分ができる小さな「我慢」が「新しい日常」を「当たり前」の日常に少しずつ戻してくれると信じて新しい年を迎えたいものです。

会いたい人に、会いた

母が新しいことを覚えようとしていない、と不満を言う友人。スマホやメールを勧めても断られると。けれど、思い立って葉書を送って見たところ、思った以上に喜ばれ、親子の文通がはじまった。

と言い出した。以来、葉書とメール、両方でやりとりをしているそう。うだ。きっと、お母さんは文通が

### 試み

面倒に思いつつ、友人もやりとりを楽しむようになった頃、そのお母さんが「メール教えてくれる？」

嬉しくて、それもあってメールのことを申し出たのだらうなと思う。友人が愚痴を言うだけだったら、

そんな姿勢が新しい扉を開いてくれるかもしれない。そんなことを思いながら、新しい年を迎えたい。

頻繁な交流は生まれなかったかもしれない、と。愚痴ばかりをこぼしたくなる一年だった。それも当然の状況だ。だけれど、それだけで終わらせ

ずに、できることを探してみる。

### 風にゆられて誰かに届け!

## 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。誰に届くかは風次第...。送り方は簡単。下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あ事務返信筒にのりをつけて、事務局宛封下まで流し込みます。



い時に、会いたいだけ会える。そんな今まで通りの「当たり前」に。

一人一人の我慢や、今できるほんの少しの支え合いが実を結び、来年の今頃は穏やかな日々を取り戻せたと誰もが思える日常であることを願っています。

来たる年が皆さまにとつてより良い一年でありま

### 次回発送日

次回の発送についてはですが、お知らせの通り、年末(31日)の発送は、年賀状などの郵便事情の影響を考慮し、お休みと

なり、年明け最初の発送は15日となります。送りたいお手紙がある場合には、13日までに事務局に到着することを確認の上、ポストに投函してください。

### 御礼

今年はコロナ禍で大変でしたが、温かいお言葉をたくさんいただきました。知らず知らず支えられていたのだと改めて感じました。ありがとうございます。事務局宛へのお手紙についてもお返事を書くべきところなのですが、この場を借りて御礼申し上げます。皆様、良いお年をお迎えください。